



題字 井口 文章 再刊 第314号 印刷・発行 2020 みんなでつくる 錦城高校新聞

# 声を一つに 気持ちを一つに

## 全体合唱の練習行われる

合唱祭まであと1日、いよいよ本番が近づいている。1・2年生のどのクラスも練習に励み、実行委員会も着々と準備を進めてきた。今回は合唱祭成功に向けて活動してきた生徒らに取材を行った。



1月8日(水)に行われた1・2年生の合同練習の様子

### 最初で最後の全体練習

1月8日(水)の始業式後、1・2年生合同で合唱曲「あなたへ」旅立ちに寄せるメッセージの練習が行われた。初めの通しではほとんど声が出ていなかったが、指揮者の竹内優輝くん(1J)の指導により練習最後の通しでは少し声が出るように。竹内くんは、声が出やすくなるように背伸びをして歌うよう呼びかけていた。男性パートに対しては腹筋を使って、太い声を出すこと、女性パートに対しては頭の中で声を響かせ、つむじから声が出るようなイメージを持って発音をするようにとアドバイスをした。

### 全体練習を振り返って

指揮者の竹内くんは、歌詞に込められた思いを考えながら、音の連なりがつくる空間を指揮で表すことを意識しているという。また伴奏者の関



「本番は表情を柔らかくして歌いましょう」

歌うとより良い合唱祭になると思います」と呼びかけた。

### 全員が楽しめる合唱祭を

合唱祭実行委員長の細川遥菜さん(2G)に話を聞いた。1月8日(水)現在委員会に残っている仕事は、司会のプログラム、委員会内の係の役割の確認。余裕を持って本番に取り組めるように仕事を進めたという。

## 挑戦の連続

## アメリカホームステイ

12月23日(月)〜1月6日(月)、アメリカのカリフォルニア州で行われた。参加した生徒約20名は、ホームステイをしながら、ホストファミリーと現地の観光地を巡ったり、ネイティブの講師による英語の授業を受けたりした。参加者の関口遥美さん(1



ホストファミリーと記念撮影

J)と松本愛未さん(1J)に、現地で体験について話を聞いた。参加を決意した理由を、夏休みが出来たことと話す。また関口さんはホームステイの1番楽しかった思い出として、ハリウッドやサンタモニカビーチに行ったことを挙げた。「現地の人々と英語で話する機会がたくさんあり、

一面：合唱祭目前！全員で進める準備  
留学した生徒に聞く現地でのエピソード  
二面：スラックス導入に向け急速に動く生徒会  
加速するインフルエンザ感染、対策は？

## 将棋部 関東大会を振り返って

12月22日(日)に行われた全国高等学校文化連盟将棋新人関東大会へ出場した将棋部の金ユリさん(2D)に話を聞いた。関東大会の1回戦敗退後、会長杯に出場し決勝戦まで進んだが惜しくも入賞を逃した金さん。今回の大会を、今までで1番悔しい大会だったと振り返る。勝つと確信した途端に頭が真っ白になり、ミスで反則負けになってしまったという。「結果は昨年と同じですが、反則負けになってしまったことがとても悔しいです。気持ちが対局に影響することは無いと思っていました」と苦笑する。金さんは2月に全国大会へ出場する。「全国大会では落ち着いて頑張りたいです」と語った。(菘)



「次は最後まで落ち着いて戦いたいです」

## 生徒会が新たな試み

2学期が終わった時点での生徒会の活動状況を生徒会長の橋嶋太朗くん(2A)に振り返ってもらった。これまでの生徒会と大きく変わった点は生徒会報の発行頻度。今期は1ヶ月に1回程度で、多い時には2回発行している。今まで生徒会報は事務的なものになってしまっていた。しかし、親しみやすさを感じてもらえるように写真を載せたり、「生徒会長のつぶやき」というコーナーを作ったりなど多くの工夫をしたという。「これからは余白が少なくなるようにしていきたいです」と語った。また、現在生徒会の公式Instagram開設を、広報活動拡充のひとつの選択肢として先生に申請しているという。公式Instagramを意見箱として利用することで、紙を使うよりも周りの目を気にせず気楽に書いてもらえるというメリットがある。意見箱に多く寄せられる意見は制服の改革に対する要望や学校生活における疑問・改善要望だ。「制服の改革については絶対にやり遂げたいです」と意気込み橋嶋くん。進捗状況や要望が実現可能かなどを回答し、掲示したいと話した。今後は「生徒会の活動を生徒全員に知ってもらうために、公式Instagram開設のほかにも、色々なことに挑戦したいです」と目標を掲げた。 <生徒会は裏面に続く> (杏)



## クリスマスに響く弦の音

12月20日(金)、ルネこだいらホールにて、室内楽部のクリスマスコンサートが開かれた。第1部はクリスマスの定番曲である「We wish a Merry Christmas」から始まり、ホルスト作曲の「セントポール組曲」などを雄大に演奏。「Pizzicato Polka」は、弦を弾き、ストリーパー仕立てでプログラムが進む。姉妹のサラとミナが、風邪をひいたサラとミナの代わりに、プレゼントを配る仲間を探しながら手伝うという内容だ。道中、ジブリ映画「となりのトトロ」に登場するトトロや魔法学校の生徒と出会うという、ジブリメドレーやハリポッターメドレーを演奏した。物語のクライマックスにはサンタに扮した室内楽部顧問の神谷洋行先生が登場し、部員一同の「メリクリスマス！」という掛け声で、ホールは温かい拍手に包まれた。(菘)



会場を包む華やかな音色

## チームで奏でた最高の音楽

軽音楽部 準グランプリ  
12月15日(日)に都立神代高等学校で行われた「BGM」コンテストにLELIMINOとして出場し、準グランプリを獲得した。古川くんは「次は楽部。グランプリを獲得するようにしたいです」と意気込んだ。課題1の仲上徳香さん(2E)は「今回の結果には満足しているが、その分切り替えを大切にしたい」と話した。吹奏楽部 金賞・銀賞  
1月5日(日)、6日(月)に府中の森芸術劇場で行われた第43回東京都高等学校アンサンブルコンテストで、クラリネット五重奏で金賞、金管八重奏リネターで銀賞を受賞した吹奏楽部。結果すべてを全力で出さることができました」と本番を振り返る。8人のメンバーで演奏することがとても楽しかったそうで、練習も全くと楽しんだ。中村さんは「本番の演奏も、みんなと楽しんで吹きました。このメンバーが大好きです！ありがとう」と感謝の気持ちを伝えた。(雀・樫)



次はグランプリを目指したいです



クラリネットでCLを表現！

## むらさき草

普段はテレビ番組に興味がないが、友人の勧めで『ドクターX〜外科医・大門未知子〜』のシーズン6を見てみた。フリーランスの女外科医が数々の難手術を成功させる活躍を描く医療ドラマだ。内容は面白かった。しかし作中では主人公が無許可で勝手に手術をしたり、請求する手術代が高すぎたりと、ちよつと過激な演出や表現は確かに昔からあるが、SNSが普及した今の社会では、注目が集まる過激な発言は一気に広まりやすい。昨年6月、同性婚を認める法案が提出された。同年7月には重度障害がある2人が参議院議員に当選。このように近年、世間で差別をなくそうとする意識が高まっているなかで、差別表現は大きな社会問題になることがある。そして、そういった発言はしばしば過激な発言になりがちだ。「普通の高中生は、社会の場で発言する機会はないから関係ない」と思う錦城生もいるかもしれない。けれどもラインやツイッター、インスタをやっている錦城生も多いと思う。SNSが普及し「普通の高中生」でも社会への発言がネット上で可能になったため、安易な投稿があつという間に炎上することも多い。もちろんそもそも差別発言自体が大小問わず問題だが、過激な発言をしようという可能性が今私たちに誰も持っている。過激な表現といつても、フィクションであるドラマなら非現実的で過激な世界観を楽しむし、僕もドクターXの続編が楽しみになった。だが、トラップ大統領など影響力のある人物が、例えば「国に帰れ」と移民難民を非難する過激な発言をツイッターで繰り返すつづやかれたら世界中が困惑する。娯楽であるSNSで差別発言をし、社会問題になってしまつては本末転倒だ。過激な表現は慎重にしたい。(鴻)

# “使いやすい制服”、改革なるか

## スラックス導入現実味を増す

公約として、制服や意見箱の改革、生徒会活動の生徒への周知などを掲げた今期の生徒会。すでに公約の実行にむけて動き始めている。今号では制服改革の現在について、スラックスに焦点を当てながら調べてみた。

生徒会はスラックス導入を中から、女子ベストの着用義務の撤廃や靴下の自由化などに掲げている。その動向について生徒会長の橋本太朗くん(2A)に話を聞いた。

橋本くんは「制服改革自体がお金の掛かる話なので学校側には改革の概要を伝えました」と公約の進捗状況を話す。各クラスから集まった意見の



制服改革に向けて意気込む橋本くん

また、橋本くんは規約が変われば生徒会がきちんと動いていることが生徒にもわかりやすくなることを目指している。

最後にスラックスに関しては、スラックス導入をすれば、実用面に利点があるだけではなく、ジェンダー配慮が出来る学校と認識されるようになり、また生徒自身も寛容になれると思います」とコメントした。



ジェンダーレス制服の見本パンフレット

生徒指導部主任の郷野康輔先生に女子のスラックス導入の現状を聞く。「現在、西武・そごうにモデルを提案してもらっている段階」と話す。郷野先生の元には制服の業者

## インフル対策はズバリ「手洗い」

錦城でもすでに18名が感染したというインフルエンザ(1月14日現在)。その予防方法について保健室の水田みゆき先生に話を聞いた。水田先生によると、インフルエンザが流行り始めるのは3日目を過ぎてからで、ピークは合唱祭前後になるといいます。「予防には、うがいやマスクよりも手洗いが最も効果的」と話します。マスクは2〜3時間でフィルターが弱まってしまうため、こまめに交換する必要があります。それに比べアルコール消毒は、手洗いよりも殺菌でき、肌にも優しいという。また受験に向けての対策も、最後に「インフルエンザは身震いや関節痛など、ただの



「アルコール消毒を徹底しよう」

熱とは違う反応が起こります。怪しいと思ったら、極力人との接触を控えるようにしてください」と話した。(卵)

からパンフレットが届いているが、まだ本格的に動いていないようだ。また他校はどのように導入しているのか調べるため、情報を集める努力もしているという。女子のスラックス導入は錦城の意見箱にも生徒から意見が寄せられていたものの1つであり、先生方も今の時代に合わせて、遅れをとらないよう、導入を考えたという。

しかし、他校では導入して買わない生徒が少ないのが現状である。それについて聞くと「女子生徒も制服でスラックスを穿くのに慣れていないんだと思う。慣れが心の平穏を生むからね」と郷野先生。「今までの世の中がこのような固定観念を作っているんだろ」と嘆息していた。

最後に生徒指導部主任として「制服の問題以外にもトイレットペーパーの授業のことも考えなくては行けないと思っています」とジェンダーに関する面からも熱く語ってくれた。

## スラックスの現状

編集部は287号で錦城生345人にスラックス導入に関するアンケートをとった。そのアンケート内で「錦城高校で女子の制服にスラックスが導入されるとしたら、賛成ですか」という質問をすると、全体の75%(261人が「賛成」と回答した。「賛成」と回答した人の理由のうち、男女ともに「選択の自由があるべきだ」というものがほとんどであった。また男子からは「冬にスカートをはくという理由も。一方で『制服の統一感』がなくなってしまう」といった理由で「反対」と回答した人も存在した。

しかし女子生徒に「もしあなたがスラックスか、調べていきなさい。実際に使用したいと思う女子生徒が少ないのはなぜなの

その理由を聞く。「着る人がいないため抵抗がある」と「現時点で(スカート)を穿いていて不具合なことがない」との理由が挙げられた。

現在生徒会はスラックス導入に向けて始動している。しかし導入したとしても、実際に購入する生徒が少ない可能性もある。287号でスラックスを実際に導入している拓殖大学第一高等学校に電話取材したところ「学年で数人しか購入していない」という回答が得られた。女子スラックス導入には賛成するものの、実際に使用したいと思う女子生徒が少ないのはなぜなの

## 錦城文芸

### 個性を生かして特選受賞

11月19日(火)から11月24日(日)まで東京都美術館で行われた第47回私立中等学校生徒写真・美術展で、美術部から4人が入選し、坂本くんは大会に応募するのは初めてで「自分の作品は通用しないのではないか」という不安があったそう。よって今回の受賞は、嬉しい気持ちでいっぱいだった。



時間の合間を縫って描きました

ただでなく「もつと上を狙いたい」と思うきっかけになりました」と語る。最後に「反省を生かし、よりいいものを作りたいです」と今後の抱負を口にした。(燕)

## 趣味を生かしてチャリティを

英語科の鈴木浩一先生が撮影した作品「雪上がりの朝」が、東京都主催の川の写真コンテスト風景部門に入賞した。このコンテストは、出品作品の展示会を訪れたギャラリーによる投票で優秀作品が決定する。鈴木先生は「プロの写真家ではない、一般の方々に投票で選んでもらえたことが嬉しです」と微笑んだ。



作品「雪上がりの朝」と作者の鈴木浩一先生

鈴木先生は、昆虫や花など自然のものを被写体に、10年ほど前から趣味として写真を撮

## 世界の問題に立ち向かう錦城生

2015年に国連が採択した、持続可能な世界を実現するための国際目標「SDGs」の認知度向上のため、積極的に活動している錦城生がいる。櫻井晃太郎くん(1C)だ。櫻井くんは中学生のころから、主に中高生を対象にしたSDGsを学ぶ勉強会を開催している。



2016年、プロドウェイでスピーチをする櫻井くん(写真中央)

櫻井くんがSDGsに初めて興味を持ったのは中学1年生の時。母親の仕事の関係で、日本の国連加盟60周年記念パーティーに参加した。その関係者に勧められ、ニューヨークの国連本部で平和に関するスピーチをすることになったそう。その後、スピーチ発表の場で知り合った人のSDGsに関する講演を傍聴したことがきっかけとなり、櫻井くんはこの活動を始めた。もともと世界の貧困の問題に関心があったことも、理由の1つだ。

現在に至るまで東京で2回、横浜で2回、名古屋で1回櫻井くんが開催した勉強会は、まずSDGsに関するエッセイを読み、現状を知ってもらうことから始まる。そして、どのように問題を解決できるかをグループで話し合う。参加人数は毎回約30~40人ほどで、回を重ねることに増えてきているそうだ。櫻井くんは現在、いつ開催するかは未定だが、都内での2つの勉強会を企画している。1つは小学校高学年向けに、もう1つは中学3年生から高校1年生向けの勉強会だ。最後に櫻井くんは「自分たち一人ひとりが世界の問題に関わっているということを知ってもらいたいです」と話した。(燕)

※SDGs:「持続可能な開発目標」のこと。2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための国際目標で、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など17の項目からなる。

## 大会報告

- 美術部
  - ▽11月19日(火)~24日(日) 第47回東京私立中等学校高等学
  - 校生徒写真・美術展 特選 阪本裕仁(2C)
  - 吹奏楽部
    - ▽1月5日(日)・6日(月) 第43回東京都高等学校アンサンブルコンテスト
    - クラリネット五重奏 金賞
    - 金管八重奏 銀賞
- 女子フットサル部
  - ▽12月27日(金) 武南招待ウィンターカップ2019
  - 決勝トーナメント 初戦敗退
- 弓道部
  - ▽1月13日(月) 学獅杯
- 将棋部
  - ▽12月22日(日) 全国高等学校文化連盟将棋新人関東大会
  - 金ユリさん(2D) 出場
- 男子バレーボール部
  - ▽12月22日(日) ウィンターカップ 6位
- ソフトボール部
  - ▽12月26日(木) ウィンターカップ 出場
- 合唱祭実行委員会
  - 1月10日(金) 臨時活動中

## 生徒会動静

12.20~1.14